

「アーモンドの花」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

普段食している植物の種子や果実も、その花がどんなものかは意外に知らないことが多い。アーモンドもその一つだろう。このアーモンドの姿から、どんな花を想像するだろう？私も昨日まで、アーモンドの花なんて見たこともなかった。しかし、「花の博物館」でアーモンドの花に出会って、その美しさにすっかり魅了されてしまった。



最初に見た時、その特徴から、バラ科の植物の花・・・ということはずぐにわかった。非常に美しいので、一瞬、ウメかモモの花のように見えた。しかし札を見ると「アーモンド」と書いてある。この花から作られる果実は、モモかアンズのような、香り豊かでみずみずしいものを想像するが、アーモンドの果肉は貧弱で食用にならない。かわりに種皮の内部にある「仁」を食用にする。「仁」は、クルミでいえば種子の中にある食用部分にあたる。梅干しの種の中の柔らかい白い部分(俗に「観音様」と言われる)も「仁」に相当する。今度、大手町駅のスタンド・バーでアーモンドを食べる時は、この花を思い出すことにしよう。



「アーモンドの花」 *Amygdalus dulcis* バラ科 モモ属 稲毛「花の博物館」にて